令和７年度　第２回学校運営協議会　報告

１　日時
令和７年６月６日（金）午前９時 00 分から 11 時 00 分まで

２　会場
浜松東高校　体育館、第一応接室

３　出席者
(1) 委員
松本久和（笠井地区自治会連合会会長）
山下智之（浜松市内協働センター講座講師）
高木邦子（静岡文化芸術大学教授）
堤千秋（静岡県立浜松東高等学校同窓会役員（会計））
村松将子（静岡県立浜松東高等学校 PTA 副会長）
(2) 学校関係
鈴木真一(校長)、坪井保人（副校長)、近藤好正(教頭)、澤木孝(事務長)

４　次第
(1) 浜東祭ステージ発表（書道部・吹奏楽部）見学
(2) 校長挨拶
(3) 近況報告
(4) 意見交換
(5) その他連絡事項

５　意見交換の内容
(1) 浜東祭を見学した感想
ア　書道部、吹奏楽部、ダンス部は日頃から地域の行事等でお世話になっている。
イ　ステージ発表は若さが爆発していてよかった。
ウ　書道パフォーマンスの詩がよかった。
エ　一生懸命取り組んでいる姿を見るのはとても楽しいし、仲間をたたえる姿も素晴らしい。
オ　部員の一体感を感じた。今後も活躍してほしい。
(2) 本校と地域とのかかわりについて
ア　能登半島地震では地元の中高生の力が大きな助けになった。より、地元と高校とのつながりを強化したい。
イ　笠井子ども食堂を笠井協働センターで再開する。生徒が、この運営に携わったり、子どもたちの学習支援や遊び相手として関わったりしてもらえないか。
ウ　本校と笠井地区との関わりを振り返り、だるま市で展示等をすることを通して、よりつながりを深めたい。

エ　10 年程前までは、地域と学校がお互い遠慮していた感じがあるが、最近は本校と地域とのつながりが深まっており、高校が地域のリソースになっている。

オ　昨年度、書道部がお年寄りに書道教室を開催したことが好評で、生徒の自信を深めることにもつながった。地域の行事等が生徒の活躍の場となってきており、今後も生徒が自信を深め、自己有用感の向上につながる機会としたい。例えば、お年寄り向けの紙芝居やスマホ教室などが考えられる。

カ　地域と学校がつながることで、学校の教育活動を理解してもらうことにつながり、Win-Win の関係を築きたい。

キ　インターンシップ（職場体験）を、本校の良さを地域に知ってもらう機会にしてほしい。

ク　吹奏楽部の定期演奏会のポスター等を見かけるが、街中でのパフォーマンスは大きな宣伝になると思う。

(3) 交通安全について

ア　自転車のヘルメット着用率が低い。

イ　スマホを片手に自転車を運転している高校生は大変危険。高校生が加害者になることもあり、十分指導してほしい。

ウ　車を運転し始めると自転車のマナーの悪さや怖さを認識するので、運転免許証を取得した３年生（先輩）が後輩に、自転車の運転のマナーやヘルメット着用の必要性等を伝える機会を設定するのは効果的ではないか。

エ　イヤホンをして自転車に乗っている生徒が多いように思う。その指導をしてほしい。

オ　自分事として考えてもらうために、探究学習のテーマとして「交通安全」について考えることはどうか。例えば、危険個所マップの作成や、かぶりたくなるヘルメットのデザインを考えることなどは効果的ではないか。

(4) その他

ア　県外や市外から入学してくる生徒がいるが、学校の特色を前面に打ち出していくことで募集にもつながる。

イ　教員が地域貢献等のアイデアを必ずしも持っているわけではないからこの学校運営協議会が学校と地域のマッチングを促す場となることを期待する。